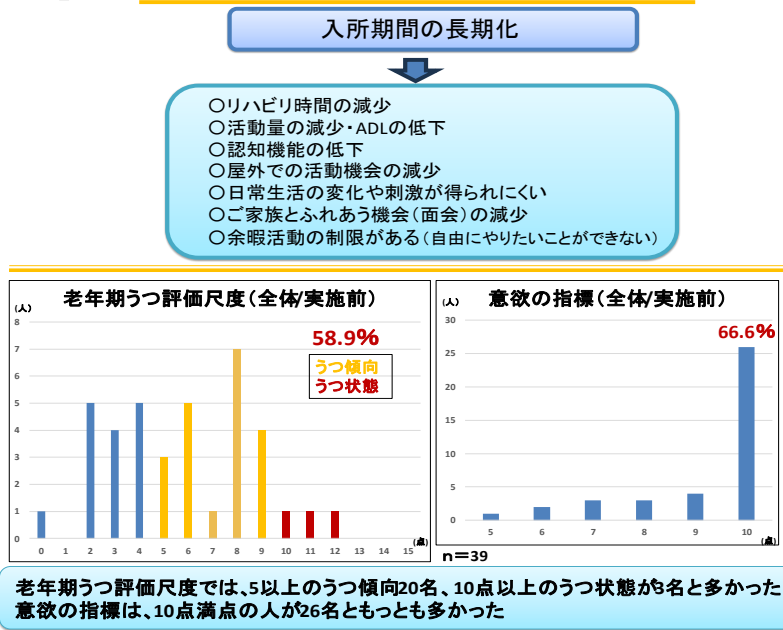
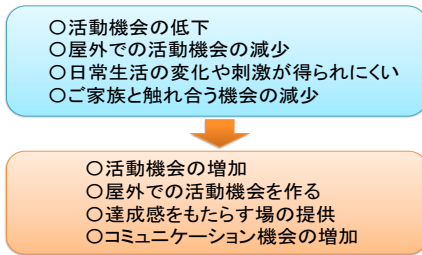


演題名	施設での幸せってなに？ ～ベランダ園芸～		
施設名	介護老人保健施設ライフサポートねりま	(ふりがな) 発表者(職種)	おりた まゆ 織田 真由 (看護師)
(ふりがな) チーム名	う(植えて)そだ(育てて)×みて、め(愛)でる♡えん・げいこ		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
取り組み種別	課題達成型		
改善しようとした 問題課題	ベランダでの園芸活動を通して、季節を感じながら屋外での活動機会を増加させることを目的として、ご利用者様とともに2023年夏にアサガオと夏野菜の栽培を行ったが、秋から冬にかけてはご利用者様とともに活動することが継続できていなかった。園芸活動が幸せホルモンの分泌を促し、意欲の向上や老年期うつ改善につながるのではないかと考え、今回のテーマに取り組むこととした。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 老年期うつ評価尺度 意欲の指標 BBS MMSE (目標値) 2024年5月中旬までに園芸活動に参加したご利用者様の老年期うつ評価尺度の改善者数を半数以上にする(28名中14名以上)		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1鉢、名札を付け、愛着を持って関わられるように促す ・チェック表を作成し、利用者ごとの参加回数を可視化(見るだけでなくテラスへ誘導し、気温や太陽光を感じる) ・春を感じられるチューリップの植え付け・水やり・観察をご利用者様とともに実施 ・活動前後での評価指標データの収集、比較(老年期うつ尺度、意欲の指標)、インタビュー、アンケート 		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 老年期うつ評価尺度は、5以上のうつ傾向が20名、10点以上のうつ状態が3名、合わせて58.9% (実施後) 老年期うつ評価尺度が改善した人は13名、悪化した人は12名、変わらなかった人は3名 目標達成出来ず		
歯止めと 標準化	<ul style="list-style-type: none"> ・ベランダ園芸のマニュアル作成および管理 ・季節の変化を感じられる植物を継続して提供、栽培する(予算管理・年間計画立案) ・テラスに出て気温や天気を感じながら、活動する機会の提供(業務調整・安全管理) ・プライマリーが主体となって対象者をピックアップし、ともに活動を行う(活動日・活動時間を設ける) ・評価指標データ収集や推移の比較、検討を継続 		
活動の種類 ※複数選択可	③テーマに合わせて形成したチーム活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 大石 浩行 介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ④その他		2 吉村 美幸 介護福祉士
活動期間	2024年1月26日 ～ 2024年5月20日		3 井戸 寛人 理学療法士
リーダー名 (職種)	武藤 久子 (歯科衛生士)		4 都築 洋一 事務
活動回数	5 回		5 林 はるみ 管理栄養士
			6 織田 真由 看護師
			7 山下 裕子 看護師
			8 前田 竜一 看護師
			9 島田 健 医師
			10 武藤 久子 歯科衛生士

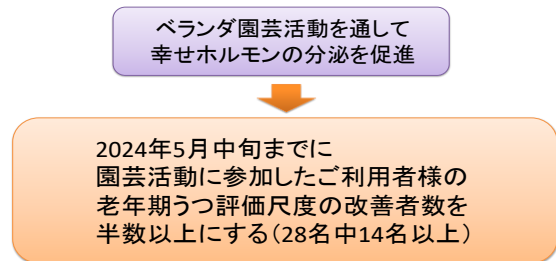
【現状把握】



【対処のねらい所】



【目標設定】



【対策の立案と実施】

評価指標

- 老年期うつ評価尺度
- 意欲の指標
- MMSE
- BBS

- 参加者へのインタビュー
- スタッフへのアンケート

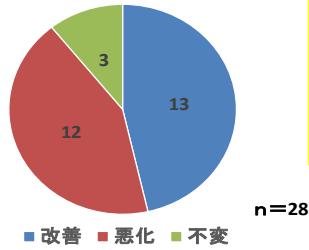
ベランダ園芸実施方法

	増やすために必要なこと	狙いどころ	対策
セラピー	太陽の光 有酸素運動 スキンシップ	屋外での活動機会 を作る	・スタッフ付き添いのもと、ベランダへ出て、チューリップ植え付け・水やり・観察を行う →気温や太陽光を感じる ・ベランダまで歩行や車イス自走を促す →歩行や活動機会の提供
ケア	目標を達成する 達成感を味わう 行動を起こす 楽しいことをする 褒められる	活動機会の増加 達成感をもたらす 場の提供	・希望者を確認して参加してもらう ・好きな色の球根を選んでもらう ・見るだけでなく、一緒に世話をする ・開花時は写真撮影を行う →記憶の定着、喜びの共有
メンタル	友人や家族との会話 人と触れ合う コミュニケーション 思いやりをもって行動する 感動する	コミュニケーション 機会の増加	・1人1鉢、退所時持ち帰り可 →愛着を持って関わられるようにする ・プライマリー(Cw・Ns)が中心となって声掛けし、成長や変化を共有 →コミュニケーション機会を増やす ・参加者同士で誘いあう、話題にあげる

【効果の確認】

効果の確認 有形効果①

老年期うつ尺度(変化者数)

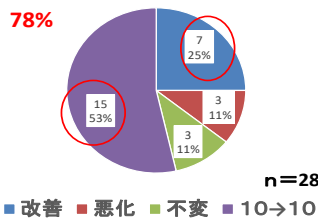


達成できず

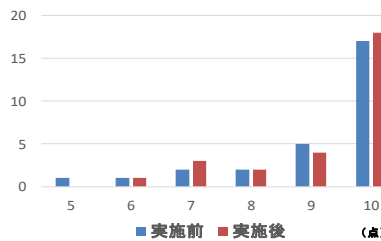
老年期うつ評価尺度が改善した人は13名
悪化した人は12名、変わらなかった人は3名

効果の確認 有形効果②

意欲の指標(変化)



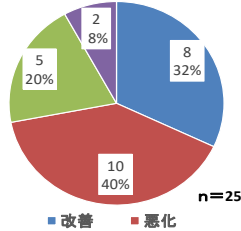
意欲の指標(前後)



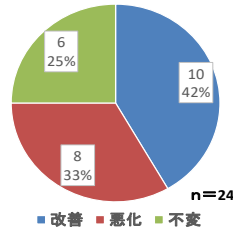
変わらず満点であった方と改善した方が28名中22名、78%になった
平均点は8.87点→9.25点となり、改善を認めた

効果の確認 有形効果③

MMSE(変化)



BBS(変化)



MMSEは、改善が8名、悪化が10名、不変が7名であった
BBSは、改善が10名、悪化が8名、不変が6名であった

効果の確認 無形効果①

参加者19名にインタビューを実施

- またやりたい:17名
- ものによってはやってもいい:2名
- 花がきれいでも楽しみだった
- 気持ちが和やかになった
- かわいかった
- 楽しみに見に行っていた
- 毎日が面白かった
- 次も参加して絶対に自分で植えたい
- ※認知機能の低下により覚えていない方もいた

効果の確認 無形効果②

スタッフ(CW・NS)にアンケートを実施(24名が回答)

- 継続に賛成:24名
- 利用者とコミュニケーションがとれた
- 積極的に見に行っている方が多かった
- 談話室まで歩いている方が増えた気がする
- 改めて利用者と話すきっかけとなった
- 笑顔をたくさん見ることができた
- 朝日を浴びるのはいいねと言っている利用者が多かった印象あり
- 普段部屋にいる方が出てきてくれた

【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どのように
標準化1	季節の変化を感じる植物の栽培	継続した園芸活動を行うため	園芸チーム 師長 事務長 (事務次長) Ns・Cw全員	年2回 年度初め	・年間計画の立案 ・予算の算出 ・園芸チームの設立 ・必要物品の購入 ・栽培方法を調べて発信 ・参加希望者の確認
標準化2	ベランダ活動のマニュアル	利用者の安全確保のため	園芸チーム 師長 主任・副主任	2024年 7月まで	・ベランダ活動におけるマニュアル作成 (人員確保、活動時間の検討、鍵の取り扱いなどを含む)
				年度末	・マニュアルの見直し
標準化3	ベランダの整備	利用者の安全確保のため	園芸チーム 師長 主任・副主任	月1回 月末	・ベランダでの休憩場所の確保 ・ベランダの物品整理 ・鉢やプランターのレイアウト
管理	園芸活動の効果の確認	取り組みの状況を知るため	園芸チーム	年4回 3ヶ月毎	・老年期うつ評価尺度、意欲の指標、MMSE、BBSデータの収集、分析 ・評価指標の検討 ・3ヶ月毎にデータをスタッフに発信

【反省と今後の進め方】

- ベランダ園芸の実施期間および評価期間が短く、データに大きな変化は認めなかったため、活動と評価指標の継続的な評価、さらに評価指標の再検討を行う必要がある
- 利用者インタビューでは、また参加したいとの声も多く、笑顔も多くみられ、スタッフからも概ね好印象であった
- 咲いた時や水やりをしている時など、タイムリーにデータを取ることが難しく、認知機能の低下がある方は、活動の記憶を振り返ることができなかった
- 健育会グループの目指す「**温かいまなざしで観察し、気持ちの変化を見逃さない 『輝きの一日』を提供できる老健**」を実現するために、さらなる工夫をしながら活動を継続していきたい